

熊本地域医療

当院HPは
こちらから



センターだより

院長 杉田裕樹

令和6年(2024年)4月発行

熊本地域医療センター電話番号(代表) 096-363-3311 FAX 096-362-0222
〒860-0811 熊本市中央区本荘5丁目16番10号 <https://krmc.city.kumamoto.med.or.jp>

通算227号
2024 4 月号

熊本地域医療センター 理念

かかってよかった。紹介してよかった。働いてよかった。
そんな病院をめざし、地域社会に貢献します。

contents

令和6年度を迎えて……………	P1
JMAT能登半島支援の報告……………	P2
退任挨拶……………	P2～3
ステップアップ研修報告……………	P3
友達の輪～Relayトーク第28弾～……………	P4

令和6年度を迎えて

すぎた ひろき
院長 杉田 裕樹



平素より大変お世話になって
おります。

令和6年度となりました。
今年度は、医師の働き方改革
が本格始動する年であり、また
診療報酬改定の年でもあります。

当センターでは、以前から
医師の働き方改革を少しずつ進めており、タスクシ
フト、ワークシェアリング、長時間連続労働の改善
などを行っています。具体的には、特定行為が可能
な看護師の育成、腹腔鏡手術における臨床工学士に
よる補助、医師の当直明け振り替え休日の導入、医
師事務作業補助者の増員などをすでに行っており実
績を上げています。これらにより、以前よりは時間
外労働を減少させることができたと思われま。し
かしながら、診療科によっては、医師数不足のため
に労働時間がどうしても長くなる現状があり、やは
り医師の確保が肝心であると思います。医師の確保
については、どの医療施設においても切実な問題で
あり、一朝一夕には解決しません。その対策の一つ
として、初期研修からの医師の人材育成を計画して
います。当センターは研修医修練施設であります
が、熊大病院の連携施設です。そして、ここ数年
間研修医が回って来ない現状が続いています。そ
こで、今

後基幹型臨床研修病院として、独自に研修医を受け
入れ、人材育成を行うべく計画しているところで
す。もちろん当センターのみでは初期研修を完結さ
せることは不可能なため、各病院にご協力をお願
いしたいと考えています。何卒よろしくお願
い申し上げます。順調にいけば、ちょうど2年
後から開始となる予定です。

一方診療報酬改定についてですが、多くの病
院にとって、今回かなり厳しくなっているよう
です。政府の医療政策として、2025年の地
域医療構想がありますが、これに策定されて
いる各病床機能別病床数の目標割合を、着
実に達成するための改定であると思われま
す。そして、0.88%のプラス改定とされて
いますが、物価上昇などからすると実質マイ
ナス改定であると言われてい。今後医療業
界の激変が起きてくるのではないかと危惧
されますが、これにしっかり対応し、病
院理念に掲げる当センターの役割を果
たすために、健全な経営を行わなくては
ならないと思っております。

最後に、当センターには新病院建築を進め
るという大目標があり、今年度の第一目
標として挙げています。医療変革、建
築費の急上昇など大変なご時勢であ
りますが、目標を達成するためには、
多くの皆様のご支援が不可欠です
ので、本年度も何卒よろしくお願
い申し上げます。

JMAT能登半島支援の報告

内科系診療部長 兼 救急科部長 ^{ひらい} 平井 ^{のぶたか} 信孝



本年1月1日に発災した能登半島地震の医療応援のため、熊本県医師会の要請を受け、当院JMATが被災地で活動してきましたので報告いたします。

今回は医師（平井）・看護師（前田・福重）・事務（清田）以外に、私の希望で薬剤師（内村）・理学療法士（池田）を加えた6名構成としました。東日本大震災や人吉・球磨の豪雨水害でのJMATの経験から、現地で薬剤管理や指導ができていなかったり、活動性が低下してフレイルや寝たきりになっている方を多く見かけたりしていたため、薬剤師や理学療法士の必要性を実感していたからです。

熊本を2月5日に出発し、飛行機の遅延や現地の雪の影響もあり、その日の夜遅くに石川県庁へと到着。そこで七尾市にある能登中部調整支部の管轄のもと、主に避難所の巡回支援を行うよう指示されました。翌6日から10日までの5日間金沢市内のホテルと、七尾市の能登中部保健福祉センター（JMAT能登中部調整支部）を毎日往復しながら、志賀町（富来地区・志賀地区）の避難所やグループホームなどを巡回しました。また志賀町の基幹病院である町立富来病院の救急外来診療の診療応援もいたしました。

現地ではまだまだ断水が続いており衛生状態が良いとは言えない状況でした。また屋根瓦が落ちたり、倒壊したりした住宅も散見されました。道路もだいぶ修復

が進んでいましたが、とくに山間部では道路の陥没や崖崩れによる通行止めや車線規制などを多く目にしました。

避難所では食事の偏りやストレス、内服薬の紛失や飲み忘れ、厳冬期であることなどから、高血圧の方をたくさん見かけました。またCOVID-19が蔓延してきており、担当したグループホームでは入所者18名中15名がCOVID-19に罹患するなど、クラスターとなっている施設や避難所もありました。ほとんどが軽症ですんでいましたが、これがCOVID-19流行初期で肺炎が必発であったデルタ株の時期であったならば、医療崩壊や死者数の爆発的増加など、大変な事態に陥っていたであろうと想像すると、空恐ろしくなりました。

幸い大きなトラブルもなく、熊本へ戻ってくることができましたが、今でも現地の人たちがどうなったか気になっています。熊本地震で全国から



たくさんの支援をいただきましたので、恩返しのつもりで参加しましたが、今後も南海トラフ地震をはじめ、地震・水害など多くの天災が降りかかってくることでしょう。我々もそのような不測の事態に医療人として即応できるよう、日頃から人的・物的・心理的備えをしておかねばならないと再認識されました。



退任挨拶

消化器内科 ^{かしわだ} 柏田 ^{あやか} 彩圭

2021年4月より3年間大変お世話になりました。消化器内科に入局し、大学病院で1年間働いた後に地域医療センターに赴任しました。至らない点が多々あり、皆様のお力添えのおかげでなんとか勤めあげることができました。地域医療センターでは様々な疾患が経験でき、知識、技術の向上にとても

良い3年間でした。

来年度から熊本中央病院へ赴任します。この経験を生かしてよりいっそう精進していく所存です。皆様方には引き続きお世話になることも多々あると思います。今後ともご指導の程よろしくお願いいたします。

退任挨拶

定年を迎えて、思い残すことはありません

副院長 ^{かしわばら} 柏原 ^{こうすけ} 光介



2014年4月より当院に入職して10年が経過し、定年退職の日を迎えました。この原稿を書いているのは2024年3月であり、外来患者さんに定年退職を告げて4月以降の外来担当のスケジュールを決めているところです。「え！若く見えるのに、もう定年なんですか？」と患者さんに責められています。最後までこの童顔には苦労しました。国立病院機構熊本医療センター在職中に髪の毛が真っ白になったことから、その後、白髪染めをしていたことも“年齢不詳”の原

因でした・・・私は「お疲れ様でした」というねぎらいの言葉がほしかったのですが。

「若い医師の補充」を希望されていたにもかかわらず、最年長の私の入職を認めてくれた呼吸器内科の皆さんに感謝しております。副院長になってからは当直免除の日直のみとなっていましたが、呼吸器内科の業務に関しては4名で均等に分担された仕事（外来、入院、オンコールなど）を10年間頑張ってきたつもりです。副院長としてどのくらい病院に貢献できたかどうかは定かではありませんが、私を支えてくださった医局の先生方、病院スタッフ、そして医師会会員の先生方に感謝しています。定年を迎えて思い残すことはありません。大変、お世話になりました。

外科部長 ^{ますだ} 増田 ^{としろう} 稔郎



私は、2021年4月から2024年3月までの3年間、熊本地域医療センター外科で勤務させていただきました。このたび医局の人事異動のため退職させていただくことになりました。4月からは山鹿市民医療センターで勤務する予定です。

在職中は、会員の先生方、熊本地域医療センターの先生方やスタッフの皆様にとくさんのご指導、ご支援をいただき、誠にありがとうございました。

当院外科では、肝胆膵の癌の難しい手術、消化管の癌の様々な内視鏡手術、胆嚢、ヘルニア、虫垂炎、

腸閉塞や腹膜炎など、バラエティーに富んだ非常に多くの手術、治療を経験させていただき、大変勉強させていただきました。2023年度は外科医師が1人減員（杉田院長を含めて外科医5人）で、大変忙しかったのですが、お陰様で2023年の手術数870例、肝胆膵高難度手術30例以上を大過なく達成することができました。来年度の外科は6人に増員してパワーアップします。会員の先生方におかれましては、引き続き、安心して熊本地域医療センター外科にご紹介をいただければ幸いです。

3年間の短期間でしたが、大変お世話になりました。感謝申し上げます。今後ともよろしく願いたします。

令和5年度 第5回 ステップアップ研修報告

褥瘡発生の要因と予防ケアについて ～どうしたら褥瘡は予防できるか～



第5回となるステップアップ研修を「褥瘡発生の要因と予防ケアについて ～どうしたら褥瘡は予防できるか～」と題し開催しました。高齢化が進む中、褥瘡予防ケアは注目されています。今回は、高齢者の特徴を踏まえた褥瘡予防について事例を通し、予防ケアの重要性を話していきました。

高齢者の特徴は、加齢に伴い「病的骨突出」「浮腫」「関節拘縮」「過度な湿潤環境による皮膚の侵軟」など様々な生理的機能低下を認め褥瘡が発生しやすくなります。高齢者に発生する褥瘡の原因を知ること、褥瘡発生のメカニズムを理解した上

皮膚・排泄ケア認定看護師 ^{おおうち} 大内 ^{かずみ} 和美

で、私達にできることは何かを考えることがとても大事になります。褥瘡発生に大きく関与するのが「圧迫」「ずれ」「摩擦」です。褥瘡予防ケアに必須とされる「体位変換」も患者に応じたケアでなければ褥瘡は発生してしまいます。だからこそ、褥瘡発生のメカニズムを理解した上で、患者に応じた丁寧なケアを私たちが、提供することが褥瘡予防することに繋がることを伝えました。褥瘡が発生してからのケアではなく、予防ケアをしっかり行うことが大事になっていきます。

今回、多くの方に参加していただきありがとうございました。今後のケアに是非活用していただきたいと思います。また、各分野において、今後も研修を企画していきます。皆様の参加をお待ちしています。

「友達の輪～Relay トーク 第28弾」

佐田クリニック さだ 佐田 きみのり 公範



はじめまして。令和6年1月より、父（佐田英信）に代わり中央区渡鹿4丁目の佐田クリニック院長に就任しました佐田公範と申します。まだ開業医となって日は浅いのですが、くまもとプレストクリニックの指宿睦子先生よりご指名をいただきまして今回寄稿させていただきます。

私は平成18年熊本大学医学部卒で、今年3月で44歳になります。佐田クリニックに戻る前の6年間は国保水俣市立総合医療センターの代謝内科（糖尿病・内分泌センター）部長をしていました。水俣は糖尿病専門医の少ない北薩地域からの患者さんも多くやり甲斐のある勤務地でしたが、年齢的に承継を考え令和5年4月に実家に戻りました。ありがたいことに父もまだまだ元気で、ITやネットワークについては自分より詳しいくらいであり、親子で一緒に診療できるのは息子としてとても嬉しい限りです。

さて、今回ご紹介いただいた指宿先生とのご縁については第27弾にありましたようにラグビー繋がりでしたが、地域医療センターと聞いてまず私が思うのは「熊大医学部ラグビー部OBの有田哲正先生や本田志延先生がいらっしゃった病院」です。お二人

とも私が学生時代はもちろん、卒業後も熊本県ラグビーフットボール協会の医務委員長として大変お世話になった先生方であり、そのイメージが強くあります。

次に思い出すのは、大学院時代に何度か勤めさせていただいた救急外来の深夜帯のことです。一次救急のみの対応にご配慮いただいていたとはいえ、毎回ほぼ寝ることができなかった記憶があり、地域医療センターの夜間救急における重要性を感じることができました。私自身も家族が救急でお世話になったこともあります。改めて御礼申し上げますとともに、これからは準夜帯の出動協力医として、微力ながら恩返しをさせていただきたいと考えております。

日中の通常診療においても、この短い期間でpro-BNP高値、膵臓癌、コントロール不良の糖尿病、内視鏡検査のお願いなど、すでに多くの患者さんをご紹介させていただきました。糖尿病内科医の診療範囲は動脈硬化や心不全・腎不全の予防、癌の早期発見、眼科・歯科との連携、肥満症、骨粗鬆症など幅広く、地域医療センターの先生方やスタッフの皆様には、これから大変お世話になることと存じます。今後ともよろしく願い申し上げます。

今回のRelayトークについては、大学の同期である熊本市東区月出1丁目の「とくずみ皮膚科クリニック」院長の徳澄亜紀先生に、無理を言ってお願いしました。あっきー、ありがとう！

熊本地域医療センター勉強会のお知らせ

日時／2024年4月22日(月) 19:00～20:00

形式／ハイブリッド方式 オンライン参加 or 会場参加
オンライン参加：ZOOM 会場参加：2階多目的ルーム

申し込み方法／kumamotochiiki@gmail.com (※1) まで

メールにて「所属医療機関名」および「氏名」を記載し、お送りください。(後日、詳細な参加方法についてご案内いたします。)

※会場参加を希望される方は、事前にお申し込みください。
人数制限によりご案内できない場合がございます。
※予定が変更になる場合がありますのでご注意ください。

(※1)メール作成用QRコード



①症例報告

『TMB-High 胆管癌にベムプロリズマブが著効した1例』

外科 新田 英利 医師

②特別講演

『皮膚科領域におけるホットトピックス』
CC26：発疹

皮膚科 坂元 亮子 医師

熊本地域医療センター

☎096-363-3311 (代表)

■紹介や転院調整はこちら
■地域医療連携室師長が対応いたします。

(平日9:00～17:00) ☎096-372-0600

■画像診断・内視鏡などの検査予約はこちら(連携室)

☎096-366-1323

編集後記

Y リレートークの佐田公範先生は「ラグビー部繋がりで執筆され、自分はサッカー部「繋がり」の後輩が4月から外科に。話題は飛躍しますが、「繋がり」の不足は物質依存と関係があり「依存症（アディクション）の対義語は、コネクション」だと知り、最近衝撃を受けました。

K 自動車学校に通う息子。今の時期は、予約が取れず乗車ができないようです。4月から大学生活が始まるとまた時間も取れず。いつになったら、助手席に乗せてくれるのかな？楽しみ半面、寿命が縮まるかもと思う今日この頃です。

H 新年度となりました。気候も暖かくなり過ごしやすいい日々感じます。以前までは肌寒かったことを言い訳に自宅に引きこもっていましたが、そろそろ言い訳が通用しなさそうなので、活発な活動をしていかなければ…。